



学校だより 神橋

令和2年1月7日
横浜市立神橋小学校
1月号



校長 末松 隆一郎

奪 還

— 青山学院大学「やっぱり大作戦」から学ぶこと —

明けましておめでとうございます。

令和2年が始まりました。年末年始と、「新春」にふさわしい暖かさが続き、穏やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。皆様が幸せで健康に満ちた1年になりますよう、心からお祈り申し上げます。

年の初め、それは清新な空気に包まれ、それぞれの夢や希望、目標や抱負を心新たにもち、その実現に向けてスタートを切る節目の時でもあります。私は新しい年の勇気や力をもらうため、また、一本の襷を繋ぐため、「絆」をもとに死力を尽くして戦う姿に魅了され、「東京箱根間往復大学駅伝競走」(箱根駅伝)を楽しみにしています。そして毎年、我が母校・青山学院大学の応援を、青学駅伝応援団横浜支部のある西区浜松町交差点にて、フレッシュグリーンののぼりを振りながら、花の2区を激走する選手達にしています。

「やっぱり大作戦、500%大成功！」



今年、驚異的な記録で箱根駅伝を制した青山学院大学・原監督の言葉です。昨年度5連覇を阻まれた青学は、その敗因分析から新チームのスタートを切ったそうです。しかし、そこで表出してきたものは、「意識」の低下でした。平成27年から始まった連覇の中で、連覇を支えてきた「青学らしさ」が逆に、近年戦国駅伝と言われるこの大会で勝ち続ける意識の欠落を生み、それがチーム全体の雰囲気をつくってしまっていたそうです。当然、駅伝後他の大会においても結果は出ることなく、優勝どころかシード権獲得も難しいのではとまで言われていました。「このままではいけない。」原監督、そして4年生を中心とした意識改革の中で、王座奪還に向けての必死の立て直しが図られました。その過程においては、4年生から何人もの退部者も出たそうです。そして、必死さを前面に出した泥臭さの中で努力を続けていくうちに、次第に「青学らしさ」を取り戻していきました。その手ごたえを感じた原監督が駅伝直前に言った言葉が、「最後に、『やっぱり青学は強かった。』と言わせよう。」でした。

意識改革の中で原監督が言い続けたことは、「理念をもつ」「傍観者にならない」「他者責任にならない」という組織をよくするための3要素でした。そして、それを受けとめた選手たちは、「自分たちでよくしていこう」「そのためのビジョンをもとう。そして、それを達成するための練習・努力をしていこう。」と、意識を強め、王座奪還に向けて走り出したそうです。

令和2年、教育界では4月から新学習指導要領本格実施となる節目の年となります。これまでの神橋を再度見つめ直し、新しい時代に向けてのビジョンと施策をしっかりと固めて、「やっぱり神橋!」「さすが神橋!」と言われる学校を目指して、今年も教育活動の充実を図っていきたいと思います。

本年もよろしくお願ひ致します。

同窓会のご案内（昭和44年3月卒業の皆様へ）

本校では、卒業50周年を迎えられる同窓会員の皆様をお迎えして、今年卒業する6年生の授業の様子をご覧いただき、給食を楽しむ会を実施しています。是非、ご来校いただいて、往時を懐かしんでいただければと思います。

準備の都合上、出席につきまして、お手数ですが2月5日(水)までに、副校長 野村までご連絡いただけますようお願いいたします。

「6年生との交流会・会食会」

日時：令和2年2月19日(水) 午前11時～

場所：神橋小学校 図書室(6年生がお迎えに行きます。)

TEL：045-491-9493